

一般社団法人日本メディア英語学会会報

# JAMES

## NEWSLETTER

JAPAN ASSOCIATION FOR MEDIA ENGLISH STUDIES No.127

会員の皆様

News Letter No.127 をお届けいたします。

### 【目次】

【1】 地区研究例会 活動報告および開催予定

【2】 研究分科会 活動報告および開催予定

(今号では、前号までに活動報告が間に合わなかった研究分科会の報告もまとめて掲載しています)

【1】 地区研究例会 活動報告および開催予定

**東日本地区第 94 回研究例会 (東海大学国際教育センター共催) 開催予定**

日時：2016 年 6 月 11 日 (土) 14:00-17:00

会場：東海大学高輪キャンパス 1201 教室

交通アクセス：①：JR、京急品川駅下車、徒歩約 18 分。②：同品川駅より都バス「目黒駅行」乗車、「高輪警察署」

下車、徒歩 3 分。③：東京メトロ南北線、都営三田線「白金高輪」下車、徒歩 8 分。[http://www.u-](http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/takanawa/)

[tokai.ac.jp/about/campus/takanawa/](http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/takanawa/)

会費：会員・学生 無料 (非会員 500 円・予約不要)

第 1 部：研究発表 (14:00-15:15)

発表者：檜 誠司 会員

発表題目：「誤訳」が外交関係に与える影響の一考察

= 69 年の佐藤・ニクソン会談を機密解除公文書で再検証 =

要旨：

佐藤栄作総理と米国のリチャード・ニクソン大統領との間で行われたこの会談をめぐっては、ニクソン大統領が日本からの米国向け繊維輸出規制を求めたのに対し、佐藤総理が「善処」として曖昧な返事をしたところ、「I will do my best」などと輸出規制に積極的であるといった通訳がなされたとの「善処」言説があまりにも有名である。ニクソンは佐藤総理が輸出規制を「約束」したと判断したものの、日本側はこの「約束」を履行しなかったため、ニクソンがその報復として 2 年後に日本の頭越しの米中接近外交や、金・ドル交換停止などの「新経済政策」の 2 つの「ニクソン・ショック」を相次いで発表したとも言われる。「ニクソン・ショック」の引き金になったのがこの「善処」発言だったと

したら、「I will do my best」の通訳は果たして妥当であったのかとかねて議論されている。ポツダム宣言に対する「黙殺」発言の英訳が原爆投下を引き起こしたとの説と並んで、この「善処」の通訳は「世界の歴史をかえてしまった誤訳」との論考もある。実は佐藤・ニクソン会談の通訳に当たった外務省の赤谷源一氏（当時は大臣官房審議官）はキャリア外交官だった。歴史的な誤訳を行ったとしたら外交官として出世街道を歩み続ける可能性は閉ざされたはずであるが、その後、国際連合事務次長に日本人として初めて就任するという栄誉にも輝いている。では誤訳があったのか、そもそも佐藤総理はどのように発言したのであろうか。赤谷氏は首脳会談から1カ月半後に佐藤総理の対米交渉の「密使」を務めていた若泉敬京都産業大学教授に「この記録は50年くらいは外に出ないだろう」と述べていた。しかし、日米両国で近年、情報公開が進み、この会談の遣り取りを日米両国政府の機密解除公文書で確認できるようになった。そこで、この公文書に基づき、佐藤の発言、その通訳の妥当性を再検証した結果について説明するとともに、日米外交をめぐるここ数年の「誤訳」の実例も挙げて論じたいと考えている。

プロフィール：

檜 誠司（ひのき・まさし）

翻訳会社編集顧問、フリージャーナリスト、英日翻訳家。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修了、修士（国際関係学）。時事通信社、米ブルームバーグ通信（Bloomberg News）東京支局で日本語の記者・エディター、英語ニュースの翻訳者・エディターとして勤務。

1992年～96年、時事通信社のニューヨーク特派員。研究テーマは、ニュース英語・外交交渉の翻訳・通訳研究。

第2部：招待講演（15:30-17:00）

講演者：小熊 宏尚氏

講演題目：通信社—その歴史と役割

要旨：ニュース報道の中心に、あるいは背後にいる通信社の存在とその活動は、一般新聞読者・ニュース視聴者にはあまり知られていない。新聞やテレビと違って紙や電波を持たず、活動の大半がBtoBであることや、普通の国では1社か2社（日本では共同通信と時事通信）、大きな国でもせいぜい3社程度しかないという希少性などがその背景にある。

しかし、ニュースの速報や、新聞紙面・ニュース番組制作に通信社は不可欠だ。国内外の各種ニュースを日々伝える日本の新聞社・放送局で、通信社との契約がない社は1つもない事実がそれを裏付けている。また、ニュース配信は国内にとどまらない。自国のニュースを外国メディアに自国語や英語などの国際言語で配信するのも重要な業務の一つである。

大きな事件・事故が発生した場合、通信社は新聞社と違い、テキストや音声を用いて、ニュースの断片をワンセンテンス程度でちぎっては投げるように契約先のメディアに伝えていく。さらに、こうした速報を骨格に記事を肉付けし、内容を何度も差し替え、さらに写真、地図など各種ビジュアル素材を配信しながら、新聞紙面で一般読者が読む詳細な記事へと差し替え作業を続けていく。

本講演ではこうした通信社の国内、海外での歴史や役割を概観しつつ、実際の和文・英文の速報テキストの紹介を通じ、その実務などを紹介する。

プロフィール：

小熊宏尚（おぐま・ひろなお） 共同通信社外信部次長。新潟市出身。東京外国語大学ロシア語学科卒業後、共同通信社に入社。鹿児島、新潟、札幌、東京本社社会部で記者として活動。カイロ（2002～05年）、ロンドン（08～11年）、モスクワ（11～14年）に駐在。14年から現職で国際報道のデスク業務に当たる。

=====

**中部地区第 67 回研究例会（第 12 回メディア意識研究分科会と合同開催） 開催予定**

日時：2016 年 7 月 9 日（土）14：00～17：00

会場：愛知大学名古屋キャンパス L702 教室（予定）

研究発表（1）

西崎有多子会員（愛知東邦大学）

「小学校外国語活動と小学校英語教科化への今とこれから」

研究発表（2）

関根紳太郎会員（東京工業高等専門学校、メディア意識研究分科会）

「熊本地震における英語メディアの報道分析」

\* 今回の中部地区例会は、第 12 回メディア意識研究分科会との合同開催です。

分科会に参加される方は、13 時から同会場にて研究打ち合わせを行います。

問合せ先：

日本メディア英語学会中部地区長 石原知英 ([tishiha@vega.aichi-u.ac.jp](mailto:tishiha@vega.aichi-u.ac.jp))

=====

**西日本地区第 121 回研究例会 活動報告**

日時：2016 年 3 月 6 日（日）14：00～17：00

会場：大阪府立大学 I-site なんば 2 階 S1 教室

内容：会員による研究発表

研究発表①：新聞二極化現象の起源－メディア・フレーム構築過程分析からみた読売・朝日の憲法提言－

発表者：笠原一哉会員（四天王寺大学）

発表内容：『朝日』、『読売』の憲法に関する主張対立の起源について、憲法 9 条に関する両紙の主張に焦点を当て、「メディア・フレーム」の観点から分析した結果をご発表いただいた。また、二極化現象の問題点として、社説と一般記事の明確な区別が必要なこと、社説の影響が大きすぎるため、記者独自の視点で公正な記事を読者に提供する機会が阻まれているのではないか、という点が指摘された。読売新聞の記者であった笠原氏には、渡邊恒雄氏の逸話も盛り込み、ユーモアたっぷりにお話しいただき、会員は熱心に聞き入っていた。発表後は、メディア・フレームという分析手法について、活発な質疑やコメントがなされた。

研究発表②：『学生記者』が取材で得た情報受信・発信力は日常生活でも生きるのか

発表者：金井啓子会員（近畿大学）

発表内容：著書の『コラムで学ぶジャーナリズム－グローバル時代のメディアリテラシー』（ナカニシヤ出版）のご公開の機会に、大学で担当しておられるゼミでの取り組みについてご発表いただいた。金井氏がロイター通信の記者であったことはご存知の方も多いであろうが、発表では、2001 年に発生した大阪教育大附属池田小の事件を現地取材した

際のエピソードを交え、記者は取材や報道に際していかなる能力が求められるのかを検証し、さらに学生がゼミの一環として、「学生記者」を経験したことが、その後の日常生活での情報の受信・発信に活かされているかどうかについて、学生アンケートの結果を紹介しながら、論評を加えていただいた。発表のあとの質疑応答では、議論が熱心に交わされた。

研究発表③： 神話化されるバイオリンの銘器 ―ストラディバリとガルネリ・デル・ジェスー

発表者：窪田光男会員（同志社大学）

発表内容：ストラディバリやガルネリは、クラシック・ファンでなくとも、耳にしたことがあるであろう。近年、欧州の空港税関で差し押さえになり、持ち主のバイオリニストが返還を求め、話題にのぼることもよくある。窪田氏は、ロラン・バルトの「神話は言語的に構築されていく」という前提、そして「エクリチュール」という概念を援用し、国際的な舞台上で活躍する高名なバイオリニストが銘器について語る時、何をどのように語るのかに注目することで、銘器神話の言語構造を分析した。ごくわずかの時間だったが窪田氏には、ご愛用のバイオリンを披露していただいた。切なくも美しい音色に、銘器神話の世界に会場全体が引き込まれるようであった。

（文責：仲西 恭子）

#### 西日本地区第 122 回研究例会 開催予定

西日本地区第 122 回研究例会は、2016 年 7 月 30 日（土）14：00～17：00、大阪府立大学 I-site なんば 2 階 S1 教室で開催いたします。詳細は、6 月中旬に学会ホームページに掲載いたします。ご期待くださいませ。（西日本地区長 仲西恭子）

=====

#### 【2】研究分科会 活動報告および開催予定

##### 英語教育・メディア研究分科会第 12 回勉強会 活動報告

日時：2016 年 2 月 27 日（土）13:00-16:30

場所：錦糸町 貸会議室 ROOMs 第 3 会議室

（〒130-0013 東京都墨田区錦糸 1-14-7 ティックハウス 2F）

タイトル：「私のメディア英語授業」：実践報告会&ディスカッション

発表者（発表順）： 加藤貴之会員

島山由香子会員

山本成代会員

内容：3名の会員が各自のメディア英語の授業についての実践報告を行い、質疑応答ならびにディスカッションが続いた。

加藤会員は、メディア英語リーディングのリメディアル授業についての発表を行った。まず、授業の設計・運営のポイント、特に1)メディア英語を題材にするメリットとデメリットの考察、2)トレーニングの方針、3)同じ英文に繰り返し触れさせるための方策等についての説明が、教育者と学習者の意識のギャップや Nation & Newton (2009)の Four Strands にも触れられつつ行われた。次に、参加者が学生役になっての模擬授業実践が行われた。参加者にとってはリメディアル授業を実践する上での具体的なノウハウを体験・吸収できる非常に貴重な機会であった。

島山会員は、中上級者向けの Reading のクラスでのメディア英語授業の実践報告を行った。合計4回の授業の中で、メディア英語の導入、見出しの読み方、内容の理解を経て、二つの記事を比較分析するまでのプロセスが紹介された。ま

た、ツイッター（Twitter）から今週のツイート（Tweet）を選ばせてコメントを書かせる課題、ニュース記事の見出しを分析し、要約とリアクションを書かせる課題、二つのニュース記事の比較分析をさせる課題などが、学生のレポートや感想と共に紹介された。

山本会員は、授業外での取り組ませ方の例として、News Report を書かせる課題につき実践報告を行った。英語でニュース記事を読む習慣をつけさせることを意図し、TOEFL クラスの学生に、ニュース記事を見つけて要約とコメントを書かせることを後期に継続させた。加えて、学期中2回、授業内で News Report Conference を行い、小グループ内で発表（含 Q&A）させる機会を設け、情報の共有や学生の動機付けを狙った。参加者は学生が実際に提出した News Report を読むこともできるなど、具体的かつ実践的な報告であった。

勉強会后、参加者からは、「少人数でアットホームでありながら実践的な内容を学ぶことができ、その場で質問をすることもできた」、「学生をやる気にさせる授業の大切なコツを学ぶことができた」、「指導方法がとても参考になった」等のコメントが寄せられた。

### 英語教育・メディア研究分科会第 13 回勉強会 開催予定

2016 年 7 月 9 日（土）13:15～16:15 を予定。場所は前回同様、錦糸町 貸会議室 ROOM s 第 3 会議室。内容は榊原克巳会員による「Readability」についての発表を中心に予定。

（文責：畠山 由香子）

=====

### ビジネス英語文化研究分科会第 42 回研究例会 活動報告

日時：2015 年 5 月 16 日（土）13:40～17:10

場所：関西外国語大学（中宮キャンパス）、2115 教室

(1) 発表：「映画 *Witness* (1985) に記録された犯罪や宗教などのアメリカ合衆国の時事問題」

発表者：岡田広一会員（関西外国語大学短大部准教授）

*Witness*（『刑事ジョン・ブッカー目撃者』1985）には、Amish の人々の生活が描かれている。彼らはスイスからやってきて、ドイツ語を話している。Amish の人たちと「普通の」アメリカ人たちとの生き方の違いなどが描かれている場面を、解説した。Amish の女性 Rachel Lapp は、都会で暮らしている姉を頼って旅に出る。列車の乗り換えをする Philadelphia の駅の洗面所で彼女の息子 Samuel が殺人事件を目撃する。刑事 John Book は、目撃証人となった Samuel と Rachel を守ろうとするが、殺人犯人である刑事に銃撃されて負傷し、母子とともに Amish の村に逃れる。John と Rachel は惹かれあうが、一緒に暮らしてはゆけないことをどちらも理解している。事件が解決すると、John は Amish の村を去る。*The Bodyguard*（『ボディーガード』1992）でも、Rachel という名のシングルマザーとその息子が危険にさらされ、ボディーガードが母子を守る。生きる世界が違う男女が出逢い恋をするが、結ばれることなく別れる。犯罪の真犯人が身近な人物であったことなど、*Witness* に対するオマージュが見られることも紹介した。

(2) 発表：「映画 *Witness* (1985) におけるコード・スイッチングの機能」

発表者：武藤輝昭会員（関西外国語大学専任講師）

コード・スイッチング（code-switching）とは、一人の話者が少なくとも二つのコード（言語または方言）を交互に切り替えながら話す行為であり、実際の多言語社会のみならず、多言語社会を舞台とした文学作品や映画作品においても、しばしば見られる現象である。本シンポジウムでは、米映画 *Witness* (1985) を取り上げ、その舞台となったアーミッシュ（Amish）の集落におけるコード・スイッチングの機能について考察した。アーミッシュの人びとは近代文明を受容せ

ず、キリスト教の戒律に基づいた質素で独特な生活様式を保持しながら暮らしているが、現在もペンシルベニア・ダッチ (Pennsylvania Dutch) と呼ばれるドイツ語方言と英語とを、切り替えながら話している。本シンポジウムでは、この両言語の切り替えには共同体の一員としてのアイデンティティ、すなわち、自己確認という機能が含まれているのではないか、という点を指摘した。特にペンシルベニア・ダッチでの発話は、アーミッシュの人びとが自分とは何者であり、何処に属しているかなど、出自や所属を再認識する機会となり得ているのではないか、という点を指摘した。

(3) 発表：「米映画 *Witness* (1985) に記録されている Amish の人びとの質素な文化の今日的意味」

発表者：吉村耕治会員（関西外国語大学短大部教授）

*Witness* (『刑事ジョン・ブッカー目撃者』1985)の中には、Amish の人びとの独特の厳格な生活の一端が描かれている。彼らの先祖たちは幼児洗礼を認めないため、キリスト教再洗礼派（アナバプティスト：「自分の意志で洗礼を受け」の意）に属し、16世紀の宗教改革の中でスイスを中心に生まれた。乱立していた再洗礼派のグループをオランダ人の Menno Simons (1496-1561) がまとめたためメノー派（メノナイト）と呼ばれたが、ライン川西岸のアルザス・ローヌ（フランス東部国境沿い）に入植していたスイス・メノナイトの Jakob Amman に従って、宗教の自由や教会の純粋さを求めてメノナイトを離れたため、アマン派（Amish）と呼ばれている。平和主義のクエーカー教徒の William Penn (1644-1718) の誘いに応じて現在の Pennsylvania 州に移住した人たちである。普段はドイツ語を話し、聖書に書かれたキリスト教の戒律を守り、近代文明を受け入れず、18世紀の服装や生活様式を続けている。大都会 Philadelphia の喧騒や多くの人びとが行き交う駅の風景と Lancaster 郡の麦畑が広がる平和で静かな Amish の村とが対比されている。

（文責：吉村 耕治）

#### ビジネス英語文化研究分科会第 43 回研究例会 活動報告

日時：2015年8月28日（金）13：35～17：00

場所：関西外国語大学（中宮キャンパス）、国際コミュニケーションセンター 4階 ICC ホールと音楽室

(1) 研究発表：“The Essay and the Hourglass: One Way to Teach Basic Essay Organization”

発表者：Stephen Shrader 氏（関西外国語大学准教授）

My presentation demonstrated how I use a chapter from the reading text *Reading Fusion 1* (Bennett, 2011) and visually introduce the parts of the essay (introduction, thesis statement, body paragraphs, topic sentences, conclusion). In particular, it allows the students to see how the thesis statement normally appears at the end of the introduction. This is important to convey to the students, since it does not follow the *ki-sho-ten-ketsu* structure common in Japanese writing. The point is not that there is any problem with Japanese essay structure at all, which is in fact quite beautiful and exemplifies the kind of indirect communication common in what Edward Hall has described as a high context culture (Hall, 1976). The problem is that interpreting a message requires a shared background and expectations between the people communicating. Those that want to communicate must do so in a way that is comprehensible to the receiver.

(2) シンポジウム：「ジョン・ラスキンのスタイル」

司会・講師：川端康雄氏（日本女子大学教授、英文学）

講師：虹林 慶氏（九州工業大学教授、英文学）

講師：真屋和子氏（慶應義塾大学非常勤講師、仏文学）

講師：花角聡美氏（一橋大学非常勤講師、英文学）

テキスト研究会第 15 回大会で企画されたシンポジウムである。英国 19 世紀の代表的な批評家の一人の John Ruskin (1819-1900) は、Oxford 大学在籍中に建築専門誌に『建築の詩美』 (*The Poetry of Architecture*, 1837-38) を発表して以来、晩年の自伝『プラエテリタ』 (*Praeterita*, 1885-89) の執筆まで、半世紀にわたって執筆活動を行っている。『近代画家論』 (*Modern Painters*, 5 vols. 1843-60) に見られるような息の長い壮麗な文体がラスキンの著作の典型的な特徴として受け取られているが、非常に多岐にわたる主題と執筆年代、また想定された読者層によって文体は微妙な変化を示している。その一方で、「壮麗な文体」という形容では捕捉できないラスキン独特の筆致が、その多種多様な著作に通底している。その文章力の根底には、幼少期に母親から受けた聖書朗読の日課や、ロマン派詩人の作品への耽溺があったことは、伝記的事実として確認できる。ヴィクトリア時代に当代の偉大な文人として、大方の讃仰的となり、没後にモダニズム作家たちによって忌避され、20 世紀後半に再評価の機運が高まって、現在に至っている。

(文責：吉村 耕治)

### ビジネス英語文化研究分科会第 44 回研究例会 活動報告

日時：2016 年 5 月 28 日 (土) 13:40~17:20

場所：関西外国語大学 (中宮キャンパス)、2115 教室

#### (1) 映画鑑賞： *Vicky Cristina Barcelona* (『それでも恋するバルセロナ』2008) <英語音声字幕約 90 分>

Woody Allen の脚本・監督による Romantic Love Comedy。不安定な愛に翻弄される男女の姿が、滑稽に描かれている。性格も生き方も違う二人のアメリカ人女性、Vicky と Cristina が Barcelona でひと夏を過ごす。そこで画家の Juan Antonio と出逢う。彼は別れた妻 Maria Elena の精神的・感情的不安定さに悩まされていた。彼は Oviedo の町で週末を過ごさないかと二人を誘う。恋愛に本能的に行動する Cristina はすぐに同意するが、伝統的な恋愛観を持ち、婚約者のいる Vicky は Juan Antonio の申し出を断りながら、Cristina を見守るために一緒に出掛ける。Cristina が食中毒で寝込んでしまったため、Vicky は Antonio と観光に出掛ける。彼の元妻との無秩序な関係を聞くうちに、Vicky は Antonio を理解し始め、詩人である彼の父親を訪ねる。暗い林の中で Vicky は Antonio の誘惑に屈してしまう。元気になった Cristina は Antonio の自宅を過ごす。そこへ Antonio の元妻 Elena が自殺未遂をした後にきて、3 人の奇妙で均衡のとれた暮らしが始まるが、Cristina が家を出ると Antonio と Elena の二人だけの関係は破綻をきたす。

#### (2) 映画 *Vicky Cristina Barcelona* (2008) の解説

解説者：岡田広一会員 (関西外国語大学短大部准教授)

これまで Woody Allen は、一般に個性の強い女性たちに振り回される男性たちを描いてきた。この作品でも、女性たちを弄んでいるような芸術家である Juan Antonio が、誘惑した二人のアメリカ人女性と、離婚した妻の 3 人が起こすトラブルに悩まされる結果となる。また、映画や小説に複数の女性が登場する場合、髪が brunette の女性が貞淑で、blonde の女性が奔放のように描かれることが多い。しかし、実際には、黒っぽい髪の Vicky の方が、明るいブロンドの Cristina よりも先に Juan Antonio と関係を持ち、漆黒の髪と瞳を持った Maria Elena の狂気に皆が巻き込まれてゆく。本作品の題名である *Vicky Cristina Barcelona* については、ローマ神話の勝利の女神である Victoria の名を持つ Vicky が、自分を強く持つ女性のように描かれており、Cristina の名はキリスト教と関連があり、舞台となった Barcelona はカトリックの国スペインの中でも独自の文化を持つ Catalonia の中心都市である。Vicky の master's thesis のテーマは“Catalan Identity”であることなども意味があると、解説した。

#### (3) 発表：「*Vicky Cristina Barcelona* (2008) から学ぶスペイン語と英語とのコード・スイッチング」

発表者：武藤輝昭会員（関西外国語大学専任講師）

（岡田広一会員と吉村耕治会員も発表に加わった）

Code-Switching とは、一人の話者が場面や状況に応じて少なくとも二つのコード（言語または方言）を交互に切り替えながら話す行為である。CD は、米映画の *Witness*（1985）に見られるような移民社会や旧植民地などのコミュニティにおけるバイリンガルの人達を対象にした研究が多いが、バイリンガル・コミュニティにおける専売特許ではなく、L2 learner（第二言語学習者）の中でも見られる。多言語社会においてはしばしば見られる現象である。昨年（2015年）5月16日（土）に開催された「ビジネス英語文化研究分科会」第42回例会では *Witness* を通してアーミッシュ・コミュニティにおけるドイツ語と英語の切り替えを考察したが、今回は *Vicky Cristina Barcelona*（2008）におけるスペイン語と英語の切り替えは、アーミッシュ・コミュニティでのスイッチとは異なった特徴が見られることを指摘した。本シンポジウムでは、特に多言語社会において敢えてコード・スイッチングを行わない事例に焦点を当て、その目的として純化（purification）や疎外（alienation）という機能が考えられるのではないか、という意見が提出された。

（文責：岡田 広一）

=====

### 新語・語法研究分科会第123回研究会 活動報告

日時：2015年9月12日（土）14:00～17:00

会場：東京都中央区立明石町区民館3号室

発表題目：「日米の大学でのディベート授業の異同——サウンドバイト、三分割法などディベートの理論研究を中心に」

発表者：福田 健一会員（浦和大学）

内容：日米の大学でそれぞれディベートの授業が行われていますが、日米の大きな違いは、日本の大学のほとんどでディベートの理論が教えられていないことです。例えば、三分割法は聴衆を3つに分割してそれぞれの聴衆にアピールする方法です。これは就職面接にも応用できます。学生は就職している時は緊張しているので真中の面接官とばかり話す傾向にあるが、そうすると両端の面接官の評価が低くなる傾向にあります。三分割法を使い全員の面接官と均等に話すと全員の評価が高くなります。このようにディベートの理論を学ぶとコミュニケーション能力が高くなり就職面接でも役に立ちます。

大学での講演では、私がDVDなどを使い論じた後に、ディベートの理論を根拠に学生が2つのグループに分けてディベートの試合を行いました。今まで理論に基いてディベートをした学生はいなかったため、とても新鮮に感じられたとのことで、感謝されました。

（文責：福田 健一）

### 新語・語法フォーラム74

**ビジネス**：Gillian Tett は新刊書で、Sony は各部門が情報・知識をサイロ化して全社共有としなかったこと(silo effect)で遅れをとったと指摘した。（小池）

ウェブサイト上で一人の人間が同時に複数人間が活動しているかのように見せかける詐欺師(scammer)を sockpuppet（自作自演；靴下で作った腕人形）という。（田中満佐人）

**技術**：団塊世代のシニア向けにIT技術利用を伝授する新企業の社名は Techboomers (tech(nology)+(baby) boomers)。（三田）

**社会**：大統領選に立候補していた Jeb Bush は握手嫌いの Donald Trump を germophobe (germ 細菌 + -phobe) と言って攻撃した。（小池）

**医学**：近年、パートナーがいらないか、仕事で忙しいため行う social freezing（社会的適応の卵子凍結保存）に人気がある。（三田）

**スポーツ**：テニスの錦織圭選手が試合中に tweener(股抜きショット)で得点すると歓声が上がる。(小川)

(文責：須永紫乃生)

#### **新語・語法研究分科会第 124 回研究会 活動報告**

日時：2015 年 11 月 14 日 14:00～17:00

会場：東京都中央区立明石町区民館 3 号室

発表題目：「20 世紀にアメリカの卓越性を創出した大統領たち」

発表者：田中 満佐人会員 (オフィス田中)

内容：米国を代表する国際政治学者である Joseph S. Nye, Jr. の著書“Presidential Leadership and the Creation of the American Era”に基づき、20 世紀の世界におけるアメリカの卓説性(primacy)を創出するのに大きく貢献した大統領を取り上げた。

まずリーダーシップに関する権威として知られる John P. Kotter の著書 “What Leaders Really Do ”をもとに、指導力の定義 (Leadership: Works through people and culture)を示し、その役割を果たす方法について“To produce change, setting the direction of that change is fundamental to leadership ” (変革を起こすことがリーダーシップの役割) と紹介した。また近年注目され始めたフォロワーシップについて簡単に紹介をした。

指導力の評価基準を目的、手段、結果とし、従来からのリーダーシップの研究で重視されがちな倫理 (ethics) については別途独立して評価を与えている。さらに共和党の強力な支持基盤のルーツであるピューリタンについても解説した。

(文責：田中満佐人)

#### **新語・語法フォーラム 75**

**経済・ビジネス**：IT や SNS の進展に collaborativeconsumption(共同消費)の概念が加わり、乗用車等の共同購入、インターネットを通しての共同出資 (crowd-funding) 等他人と共有する Sharing economy (シェアリング・エコノミー) が実現した。人件費削減のため正社員が行うべき仕事を学生や低賃金非正規雇用労働者に押し付ける「ブラックバイト」(wicked part-timework)が問題化。(石山)

安定した雇用なしにパートで働く digital sharecropper (電子時代労働者【小作人】)が増える。一日中デスクワークをする人々を調査し健康のために Happy deskercising! (desk+exercising)を呼びかける。(小池)

Collins' Dictionary's 2015 Word of the Year: Binge-Watch は「テレビ番組の長時間一気視聴」で、binge-eating, binge-drinking、binge reading に続き、ADS's most successful word 2013 に選ばれた。(小川、小池)

(文責：須永紫乃生)

#### **新語・語法研究分科会第 125 回研究会 活動報告**

日時：2016 年 1 月 9 日 (土) 14:00～17:00

会場：東京都中央区立八丁堀区民館 6 号室

発表題目：「就任 2 年目のニューヨーク市長と警察との関係」

発表者：田中 治生会員

内容：2014 年 1 月 1 日、ニューヨークの新市長に Bill de Blasio が就任する。彼は前市長の Michael Bloomberg が推進した、警察の不審人物に対する職務質問のやり方、いわゆる“stop and frisk”(路上身体検査)を強く批判したが、就任後、彼の手腕が問われる事態が次々に起こる。

同年6月、警察官がたばこの密売容疑で取り押さえた黒人男性を窒息死させる事件が起こる。これに対し彼は徹底調査を約束する (De Blasio Promises Full Investigation Into Death Of S.I. Man While In Police Custody) が、その際、警察側の非を認めた彼の発言が市長と警察との間に大きな溝を作るきっかけとなる。その後も丸腰の黒人男性を警察官が射殺した事件への対応、パトロール中の二人の警察官が殺害された事件に対する責任を巡り、彼は警察関係者の厳しい目に晒される (Mayor Bill de Blasio Under Scrutiny After 2 NYPD Officers Killed)。

就任2年目も前半は、市内での殺人・発砲事件の増加が指摘され、一部では彼の手腕が疑問視されたが、犯罪多発期に向けた新たな警察の Summer All Out program が奏功し、市長と警察との関係も改善される。両者の関係は万全とはいえないが、徐々に良い方向に向かっているようである。

(文責：田中 治生)

#### 新語・語法フォーラム 76

**Word of the Year** : American Dialect Society は 2015 年の新語に三人称で性別なしの (gender-neutral) 単数形として they を選び、新規区分に Most Notable Emoji を設けた。(三田)

また Oxford Dictionary も emoji を選んだ。Emoji は日本語からの借用。Merriam-Webster は接尾辞の -ism を新語とした。Dictionary.Com は gender, race, sexuality, Nationality がニュースに頻出した年を表す語に identity を決めた。(小池)

**国民性** : ドイツ首相 Ms. Angela Merkel が EU で率先して何万人ものイスラム教徒難民を国内に迎え入れた時、German thoroughness and German flexibility の他に亡命希望者に自らの identity, Germanness (ドイツ人らしさ) を説明できるかが話題に上った。(井上)

**経済・ビジネス** : 非上場だが時価総額 10 億米ドルを超えたベンチャー企業、unicorn (ユニコーン) はすべてオンライン系消費者向けベンチャーで日本にはない。(石山) カナダでは pick-and-pay rules の新法の下で a la carte pay television になる。(田中満佐人)

**メディア** : 長時間スマホやパソコンを見る結果、20~30 歳代の若者にスマホ老眼 (smartphone farsighted-ness) が増えている。

(文責：須永 紫乃生)

#### 新語・語法研究分科会第 126 回研究会 活動報告

日時：2016 年 3 月 12 日 (土) 14 : 00~17 : 00

会場：東京都中央区立明石町区民館 3 号室

発表題目：「英米映画のセリフに用いられる句動詞の一研究、その 2 : 人生の生き方をめぐる 3 つの映画について」

発表者：水野 修身会員 (松蔭大学)

内容：今回は以前日本メディア英語学会の全国大会で発表した映画のセリフに用いられる句動詞研究の続編であり、最近の英米映画の中で、共通して人生の生き方をめぐる内容をテーマにしたもの 3 作を選び、その中に出て来るセリフにおける句動詞用法の特質を探索した発表である。それらは『アリスのまままで』、『最高の人生の見つけ方』、『新しい人生の始め方』である。

発表資料 1 で、これらのセリフに現れる句動詞 240 が提示され、特に、barge in, break up, cut through, desist from, give up on, go through, involve with, live through, rail against, start behind, thrive on, vouch for などが紹介された。

資料2では各句動詞のカテゴリー別分類が91にわたって提示され、適応、依存、出会い、交際、仕事、調査、遂行、取り組み、援助などが強調された。これらの発表から、人生における様々な場面・様相、特に出会い、離別、生活を生き抜いていく有様と関連した句動詞表現が多く見られた点の一つの特徴的な面であり、さらなる研究の深まりが望まれる。

(文責：須永 紫乃生)

## パネルディスカッション

題目：「米国大統領選挙2016 その1 予備選挙の争点」

Moderator:石山 宏一会員

Super Tuesday が済み、民主党では本命の Hillary Clinton 上院議員と、共和党では異端と見られる行政経験のない Donald Trump 氏の決戦になるだろうと、石山会員が発言した。田中満佐人会員は、2012年に Mitt Romney 氏が大統領選挙で敗れた直後に“Make America Great Again!”を、Trump 氏が商標登録して (trademarked) ホワイトハウス入りを計画したとの WSJ (March 2) の記事、FT (March 1) の “Mr. Trump is a promoter of paranoid fantasies, a xenophobe and an ignoramus.” の指摘、および Trump 人気をもたらしたのは “pluto-populism” (特権階級 + 人民主義) の説明等を引用した。

須永会員が引用した Time (March 7) の記事 “The GOP’s last, best chance to trump Trump” に関して trump は「切り札(を出す)」と trumpery (たわごと) へのほめめかしが感じられるとコメントした。石山会員も指摘した。記事の結びは “The only way to win is to win, and only one man has shown he knows this.” “And soon the country’s going to start winning, winning, winning.”

最後に、小池会員が「Trump 氏が共和党の候補に選ばれても、大統領にはなれないだろう」と発言し、石山会員の賛同とかなりの nodding が見られた。

(文責：須永 紫乃生)

## 新語・語法フォーラム 77

**政治：**Captain’s call (政界あるいはビジネス界のリーダーの独断) が Macquarie Dictionary の WOTY に決定。

Donald Trump のように権力者や少数派の人を批判して大衆の支持を得ようとする思想を pitchfork populism という。(小川) / EU からの英国の脱退論 (Brexit, the “Out” campaign) は、米英豪加プラスニュージーランドの世界平和と繁栄を目指す新しい連合体 “Five Eyes” の Anglosphere (英国中心圏) のリーダー的役割を見出そうとしている。(井上)

**経済：**Helicopter drop (ヘリコプター投下) は、紙幣増発により消費を促すこと。(小池) / O2O (Online to Offline) ネット情報が実店舗での購買力に影響を与える。(小川)

**ビジネス：**情報技術を駆使して新規の金融サービスを生み出したり従来のサービスを見直し・改善する動きを fintech [fin(ancial)+ tech(nology)] という。無許可だが個人住宅の空き部屋に旅行者を客として有料で宿泊させるサービスが private homes’ room rental (service), room[home]-sharing service である。(石山)

(文責：須永 紫乃生)

## 新語・語法研究分科会第 127 回研究会 活動報告

日時：2016年5月14日(土) 14:00~17:00

会場：東京都中央区立明石町区民館3号室

発表題目：「米国2016年大統領選挙の英語」

発表者：小池 温会員

内容：米国大統領選挙では、これまで Soccer Mom (1996 Word of the Year), Change(2008 Obama)等、傑出した Keyword が登場した。オバマ大統領は Obamania, Baracracy 等 100 を越える Nickname(新語) を得た。今回の予備選挙では眼を引く新語が見当たらない。

まず、クリントン候補(Hillary Clinton)は政治家の経歴も長いので、Hillarycare, Clintonistas 等が数年前から使用されているのみ。トランプ氏が言う Crooked Hillary は可哀想。サンダース候補 (Bernie Sanders)が、ジェーン・フォンダがエアロビクスでいう Feel the Burn (頑張れ) と Bernie を合わせて Feel the Bern と言っているのは上出来と言えよう。トランプ候補 (Donald Trump) は The Snake (Al Wilson の歌の歌詞から), "Make America Great Again"のための The Call (アメリカ企業の本国集結呼びかけ), The Bullet (力の誇示) と呼ばれる。放言は多いが、皆内容は既存の普通名詞と固有名詞を並べているだけ。本選挙まであと半年あるが、今回は眼の覚めるような新語出現は期待できそうにないのが残念である。

(文責：小池 温)

## パネルディスカッション

題目：「米国大統領選挙 2016 その2 波乱呼ぶ予備選挙の行方」

Moderator:三田 弘美会員

井上会員は、「米大統領選で民主党指名候補本命の Hillary Clinton 氏の人気度と共和党の指名が事実上確定した Donald Trump 氏の発言」について取り上げた。田中満佐人会員は、「今回の選挙は、共和党対民主党の戦いではないという FT 電子版の記事”It will be insurgent versus establishment, shoot-from-the-lip versus, disruption versus business-as-usual and nationalist populism against conventional internationalism.”」を紹介。

浜屋会員は、「bully, showman, party crasher, demagogue」はすでにクリアし、後は”the 45th President United States”を空欄とした TIME の表紙他を紹介。小池会員は、「予備選挙では、民主党は Clinton 候補が、共和党は Trump 候補が選ばれるのは確実としても、本選挙では Clinton 氏が勝利すると予想される」と指摘。三田会員は「Donald Trump 氏の扇動的な発言が、Clinton 氏から叩かれる事は必至。勝つために情勢変化をする可能性も。」と発言。反対意見は特に出なかった。

(文責：三田 弘美)

## 新語・語法フォーラム 78

**犯罪・テロ**：携帯電話の SMS(short messaging service)を利用してメッセージを送り、偽の権威ある phishing site に誘導して ID やパスワードを盗み取り、お金をだ

まし取る新規のオンライン詐欺の手法 smishing (スミッシング) が登場。(石山) IS 等に対抗するため治安機関を強化し、SNS を把握し、過激主義者のネットワークに食い込むやり方を the new normal (ニューノーマル) という。

(小池)

**産業**：industrial recycling business を venous industry (静脈産業) と称する。(小川) 軽量で動き易く操作も簡単な新型ロボット cobot [co(laborative)+(ro)bot]が開発されている。(小池) /Budweiser は 5 月 23 日から 11 月 8 日の大統領選挙日までビールの名を America と改称する。(田中満) /ハリウッドでハッシュタグ

#whitewashedOUT 「非白人役に白人俳優がキャスティングされることはやめさせよう」が出た。(三田)

**経済**：円価がだんだんと 100 円に近づいたら、もっとも強気の外国人も”Abegeddon”を避けて逃げるだろう。(井上)

(文責：須永 紫乃生)

=====

**メディア英語教授法・教材研究分科会第 28 回研究会 活動報告**

日時：2016 年 2 月 6 日(土)

会場：関西外国語大学 本館 2 階 201 会議室

活動内容：①学習者に実施したアンケート結果の考察と検討

②分科会メンバーで行うワークショップ発表の検討

参加者：村上裕美、仲渡一美、笹井悦子、蔦田和美、中島美智子、  
吉田三紀、山岡加菜子、石井研司、幸田美沙

**メディア英語教授法・教材研究分科会第 29 回研究会 活動報告**

日時：2016 年 2 月 27 日(土)

会場：関西外国語大学 本館 2 階 201 会議室

活動内容：①言語教育エキスポ 2016 発表内容の検討

参加者：村上裕美、仲渡一美、笹井悦子、蔦田和美、中島美智子、  
吉田三紀、山岡加菜子、石井研司、幸田美沙

**言語教育エキスポ 2016 活動報告**

日時：2016 年 3 月 6 日(日)

会場：早稲田大学

活動内容：言語教育エキスポにおいてワークショップ

現在開発中の教材について発表

発表者：石井研司、村上裕美、仲渡一美、笹井悦子、蔦田和美、中島美智子、  
幸田美沙 (テキスト構成順)

**メディア英語教授法・教材研究分科会第 30 回研究会 活動報告**

日時：2016 年 3 月 24 日(木)

会場：関西外国語大学 本館 2 階 1202 教室

活動内容：開発した教材を活用した Active Learning の展開法について

発表者：参加者：村上裕美、仲渡一美、笹井悦子、蔦田和美、中島美智子、  
吉田三紀、山岡加菜子、石井研司、幸田美沙

**メディア英語教授法・教材研究分科会第 31 回研究会 活動報告**

日時：2016 年 5 月 28 日(木)

会場：関西外国語大学 本館 2 階 1203 教室

活動内容：①論集について ②新規活動について

発表者：参加者：村上裕美、笹井悦子、中島美智子、吉田三紀、山岡加菜子

**メディア英語教授法・教材研究分科会の今後の活動について**

2年間を費やして活動してきた教材開発ならびに開発した教材を利用した授業展開に関する論文を完成しました。  
(今後は出版作業のみ継続します) 2016年7月から新規活動を開始します。新しい活動は、映画、ニュース、映像等のオーセンティックな資料をもとにどのような指導や教材を作成するか、または実践したかを発表する機会を研究会にて設けます。また、発表の成果を論集としてまとめます。

これまで教材作成の過程から参加しにくく思っておられた方もおられたと思います。新規の活動では、気軽に毎回の活動に参加しやすくなります。ご発表希望者を公募しています。

ご希望の方は代表 村上 裕美(関西外国語大学短期大学部) [hiromim@kansai.ac.jp](mailto:hiromim@kansai.ac.jp) までいつでもご連絡ください。ご発表日や発表時間等のご質問も遠慮なくお寄せ下さい。

ご連絡いただく際には、メールの件名に「メディア英語教授法・教材研究分科会 発表について」と記載ください。ご参加お待ち申し上げております。

### メディア英語教授法・教材研究分科会第32回研究会 開催予定

日時：2016年7月16日(土)

会場：関西外国語大学 本館2階 1203教室

活動内容：「メディアを活用した授業展開」に関する発表

発表時間：発表20分、質疑応答10分

発表者：6名

(先着順に発表希望者が定員になり次第、次回の発表とさせていただきます。)

=====

### メディア意識研究分科会第11回研究会 活動報告

日時：2016年2月13日(土) 13時~17時

場所：愛知淑徳大学星が丘キャンパス

発表者：井上彩(愛知県立芸術大学)

発表題目：Different Contexts, Different Attitudes: Linguistic Attitudes about the Use of Hawai'i Creole (Pidgin)

内容：井上会員は、米国ハワイ州においていわゆる“標準”アメリカ英語に対して、ハワイ・クレオール語が、地元民のアイデンティティ・マーカーとしての役割を担っていることを指摘した上で、private domain(私的空間)とpublic domain(公共の場)においての、その2つの“言語”のappropriateness(言語(使用)の妥当性[適切性])に関する問題点を取り上げた。その1つとして、メディアでの言語使用についても考察した。我が国においても、NHKで使用される言葉が、“標準”日本語的位置付けであるように、ハワイのメディアにおいても、“標準”アメリカ英語が基本とされ、標準英語とハワイ・クレオール語のバイリンガルである気象予報士は、ハワイ・クレオール語のアクセントを理由に昇進が閉ざされるという事例まである。さらに、そうした傾向はeducational domain(教育の場)においても顕著であり、かつては学校教室におけるハワイ・クレオール語の使用が一切禁止された時代もあったようだ。こうした背景を踏まえて、井上会員は、情報源としてのメディアや、人間形成や社会形成に不可欠な学校教育における使用言語の問題を、若年層の話者がどのような言語態度でとらえているかを調査したハワイ・クレオール語に対する言語意識調査のデータを示しながら、今後もハワイ・クレオール語に関する言語態度の動向を様々な手法から調査する必要性について提言された。(文責・関根紳太郎)

### メディア意識研究分科会第12回研究会(中部地区第67回研究例会との共催) 開催予定

日時：2016年7月9日(土) 13時~17時

場所：愛知大学名古屋キャンパス 7階 L702教室

\*名古屋駅より名駅通を南下(徒歩10分程度)、またはあおなみ線ささしまライブ駅より徒歩すぐ

発表者：関根紳太郎（東京工業高等専門学校）

発表題目：「熊本地震における英語メディアの報道分析」

会員、非会員問わず、参加費無料。

参加ご希望の方は、お名前とご所属を添えて電子メールにて下記本分科会代表までご連絡下さい。

メディア意識研究分科会代表：関根紳太郎（東京工業高等専門学校） Email: sekine[at]tokyo-ct.ac.jp

=====

#### **メディア英語談話分析研究分科会第 51 回研究分科会 活動報告**

日時：2015 年 6 月 28 日（日）午後 1 時から 5 時まで

場所：I-site なんば R6 会議室

内容：Caldas-Coulthard, Carmen R.; and Malcolm Coulthard (eds.) 1995. *Texts and practices: Readings in critical discourse analysis*. London: Routledge. の講読とディスカッション

担当：石上文正会員

Chapter 1 : 'On critical linguistics' Roger Fowler

主な内容：「批判言語学」における「批判」について、批判言語学と機能言語学  
「ディスコース」、間テクスト性

#### **メディア英語談話分析研究分科会第 52 回研究分科会 活動報告**

日時：2015 年 9 月 13 日（日）午後 1 時から 5 時まで

場所：I-site なんば M2 会議室

内容：Caldas-Coulthard, Carmen R.; and Malcolm Coulthard (eds.) 1995. *Texts and practices: Readings in critical discourse analysis*. London: Routledge. の講読とディスカッション

担当：仲西恭子会員

Chapter 2 : 'Representational resources and the production of subjectivity:

Questions for the theoretical development of Critical Discourse Analysis in a  
multicultural society' Gunther Kress

主な内容：表象資源と主体性、カリキュラム、多文化社会、  
表象資源の民族誌的研究、多文化主義における主体性

#### **メディア英語談話分析研究分科会第 53 回研究分科会 活動報告**

日時：2015 年 12 月 12 日（土）午後 1 時から 5 時まで

場所：I-site なんば R6 会議室

内容：Caldas-Coulthard, Carmen R.; and Malcolm Coulthard (eds.) 1995. *Texts and practices: Readings in critical discourse analysis*. London: Routledge. の講読とディスカッション

担当：花井晶子会員

Chapter 6: 'The genesis of racist discourse in Austria since 1989'

Ruth Wodak

主な内容：歴史的ディスコース研究、人種差別主義者のディスコース、正当化のディスコース、オーストリアの  
隣国に対する態度とメディア・ディスコース

#### **メディア英語談話分析研究分科会第 54 回研究分科会 活動報告**

日時：2016年3月14日（月）午後1時から5時まで

場所：I-site なんば R6 会議室

内容：Caldas-Coulthard, Carmen R.; and Malcolm Coulthard (eds.) 1995. *Texts and practices: Readings in critical discourse analysis*. London: Routledge. の講読とディスカッション

担当：富成絢子会員

Chapter 3 : 'The representation of social actors' Theo van Leeuwen

主な内容：社会的行為者の表象、人物を表す指示語の選択、

社会的行為者の分類：排除、役割の割り当て、一般化と特定化、同化、関連化と分離、不確定と区別、指名と分類、機能化とアイデンティティ化、人間化と非人間化、重複決定

### メディア英語談話分析研究分科会第 55 回研究分科会 開催予定

日時：2016年6月25日（土）午後1時から5時まで

場所：I-site なんば S2 会議室

内容：Caldas-Coulthard, Carmen R.; and Malcolm Coulthard (eds.) 1995. *Texts and practices: Readings in critical discourse analysis*. London: Routledge. の講読とディスカッション

担当：高木佐知子会員

Chapter 4 : 'Technologisation of discourse' Norman, Fairclough

=====

日本メディア英語学会会報

2016年6月号（通巻 127 号）

発行：一般社団法人日本メディア英語学会

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号 大阪府立大学人間社会学部内 相田洋明研究室気付

TEL: 072-252-1161（代表）

URL: <http://james.or.jp>

発行人：相田洋明

編集：金井啓子・南津佳広